



サンタクロースっているんでしょうか？

12月24日。我が家では、毎年、サンタクロースが子どもにプレゼントを渡していました。ところが、ある年「サンタさんの声ってお父さんに似ている」と言われたため、夜寝ている間に枕元にプレゼントを置くようになりました。赤い服は、押し入れの中で眠ったままになっています。子どもたちは、いつサンタクロースはいないということに気づくのでしょうか・・・？



これは、アメリカで今から100年以上も前、実際にあった話です。バージニアという8歳の少女の素朴な質問に、ある新聞社が「新聞の顔」ともいえる社説（1897年9月21日）で次のように答えています。

あたしは8つです。あたしの友だちに「サンタクロースなんていないんだ」っていつている子がいます。パパにきいてみたら、「サンしんぶん、といあわせごらん。しんぶんしゃで、サンタクロースがいるというなら、そりやもうたしかにいるんだらうよ」といいました。

ですから、おねがいです。おしえてください。サンタクロースってほんとうにいるんでしょうか？

バージニア、お答えします。サンタクロースなんていないという、あなたのお友だちはまちがっています。きっとその子の心には、今はやりの、何でもうたがってかかる、うたぐりというものがしみこんでいるのでしょう。うたぐり屋は、目に見えるものしか信じません。うたぐり屋は、心のせまい人たちです。心がせまいために、よくわからないことがたくさんあるのです。それなのに、自分のわからないことは、みんなうそだと決めているのです。

そうです、バージニア。サンタクロースがいるというのは、けっしてうそではありません。この世の中に、愛や、人への思いやりや、真心があるのと同じように、サンタクロースもたしかにいるのです。

あなたにもわかっているでしょう。世界にみちあふれている愛や真心こそ、あなたの毎日の生活を、美しく、楽しくしているものなのだという。もしもサンタクロースがいなかったら、この世の中は、どんなに暗く、さびしいことでしょうか。あなたのようなかわいらしい子どものいない世界が、考えられないのと同じように、サンタクロースのいない世界なんて、想像もできません。サンタクロースがいなければ、人生の苦しみを和らげてくれる、子どもらしい信頼も、詩も、ロマンスも、なくなってしまおうでしょうし、私たち人間の味わう喜びは、ただ目に見えるもの、手でさわるもの、感じるものだけになってしまうでしょう。この世界で一番たしかなこと、それは子どもの目にも、大人の目にも、見えないものなのですから。（中略）

サンタクロースがいなくて？とんでもない！うれしいことに、サンタクロースはちゃんといます。それどころか、いつまでも死なないでしょう。一千年のちまでも、百万年のちまでも、サンタクロースは、子どもたちの心を、今と変わらず、喜ばせてくれることでしょう。

※『サンタクロースっているんでしょうか』（偕成社）より抜粋

プレイバック2009

4月から発行してきた学校通信『浦島伝説』も、本号をもって今年最後となりました。

この1年を振り返ると、実に多くの出来事があり、その中で生徒たちは多くの経験を積み、大きくたくましく成長してきました。「新型インフルエンザによる学校閉鎖」「青空の下で生徒も先生も優雅に舞い踊った体育祭」「練習不足を気持ちでカバーした合唱コンクール」「“新志新風”のテーマの下、新しく生まれ変わろうとしている生徒会」「来春の完成を目指して建設が始まった体育館」「全国学校給食甲子園出場及び学校給食文部科学大臣表彰」「情報発信源として復活したホームページと新たに開始したまちcomiメール」。その一方で、携帯電話等によるトラブルの未然防止、登下校の交通ルールやマナーの徹底など、多くの課題も残されています。（裏面に携帯電話に関する人権作文を掲載していますので、ぜひご一読ください）

また、先日の期末懇談の折には、学校教育についてのアンケートにご協力いただきましてありがとうございました。皆様からいただいたご意見等をもとに、教職員一丸となって、さらによりよい詫間中学校を創り上げていきたいと思っております。1年間お世話になりました。よいお年をお迎えください。

『携帯と人権』

観音寺中部中学校 清水玲那さん

私は携帯電話を持っていない。友だちが携帯電話でメールをしていたり、ゲームをしたりしているという話を聞くと、「いいなあ。私も携帯電話がほしいなあ。何で買ってくれないんだろう」と思う時もある。すると、母が「じゃあ、いい機会だから私の携帯電話を夏休みの間、貸してあげるから使ってみたら」と貸してくれた。すごくうれしくて、すぐに友だちの電話番号やメールアドレスを登録した。また、母が登録しているゲームサイトにも行ってみた。驚いた。知らない間にこんなに進化しているなんて。いろいろなゲームやホームページが無料でいつでもどこでもできるのだ。またプロフとよばれるものにもいけて、たくさんの人が自分の顔写真や年齢などを公開しているのだ。私はそれを見て、これって個人情報なのにこんなに簡単に載せていいのかなあと不安に思った。

そしてある事件を思い出した。それは高校生のいところから聞いたのだが、同級生が学校裏サイトで悪口を書かれていたのだ。それも実名で。書いた方の名前も実名だったらしい。しかも、それは誰かがその人になりすまして名前を使っていたそうだ。そんな話を聞いている時、私は「どうせ、私は携帯電話を持っていないし、パソコンでメールもしないから関係ないな」と思っていた。でもそれって本当にそうだろうか。もし、持っていなくても自分がそんなことをされたら嫌だろうし、もちろん自分の友だちがされてもすごく嫌な気持ちになるのだろう。これは完全ないじめなのだ。それもネット上のいじめという誰が書いたのかわからないすごく巧妙な手口での。

統計によると、社会変化が進み、情報化社会の進展に伴い、新たな人権問題としてこのネット上のいじめや、プライバシー問題が増加しているそうだ。特に、インターネット上のホームページや電子掲示板に、他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現が掲載されるなど、人権に関わる問題が発生しているようだ。

どこか、他人事のように思っていた私であるが、私もとうとう経験してしまった。私は嵐の大ファンで、携帯電話でも嵐のファンサイトによくいっていた。もちろん匿名で。するとある人から「〇〇（私の匿名）うざいよなあ。人のホームページ来るんだったら、ちゃんとコメントとか残していけ。バカとちがうん」と書き込まれていたのだ。すごくショックだった。なんでこんなこと書かれなければいけないのだ。反論をしようと思ったら、勝手にその人にそのサイトにいけないようにされていた。幸いその意見に賛成する人はおらず、ネット上の悪口は収まったが、電子掲示板などの場合、反論すればするほど、どんどん炎上して収拾がつかなくなることもよくあるそうだ。

自分がされてみて、初めてネットいじめの恐ろしさがわかった。今回のものは、全然知らない人にネット上に悪口を書かれただけだったが、それでも想像していた以上に私は傷つき、腹が立った。もしこれが、自分の知っている身近な人にされたら、立ち直れないかもしれない。いとこの話を聞いた時には私は関係ないと思っていたが、これは明らかにいじめであり、人権問題なのだ。

この夏休みに携帯電話を使ってみて、携帯電話の便利さや楽しさ、また怖さがよくわかった。携帯電話はインターネットがどこでも使えて、メールやゲームやホームページに簡単にアクセスできる。私自身、楽しすぎて時間を忘れて没頭してしまうことが何度かあった。でも、それはひとつ間違えば、他人への悪口やいじめへの温床となる場合もあるのだ。実際に、私の身近な所でも悪口を書かれたり、それがもとでもめたりしたこともあった。また、プロフやブログで個人情報を流出させたり、出会い系サイトにアクセスしたりして、新たな犯罪に巻き込まれる危険性もあるのだ。

携帯電話がほしいと思っていた私だが、自分自身が使ってみて寝不足になったり、宿題が進まなかったりしたことで、自己規制をしながら使いこなすことは難しいことがよく分かった。また、ネット上に自分の悪口が書かれ、それが一人歩きをした場合、止める方法がなく、心がすごく傷つくこともわかった。政府や県、市町村レベルで、小中学生の携帯所持禁止が進んでいるところもあるが、判断力のない子どもが、持ってはいけないと言われるのは当然だと思う。私も今回の経験で、まだまだ自分が携帯電話を持つのは早いと痛感した。もっと人権問題に敏感になり、自己規制ができる大人になるまで、母に返しておこうと思う。